鋼船規則

規
則

Q 編 鋼製はしけ

2011 年 第 1 回 一部改正

2011 年 6 月 30 日 規則 第 18 号

2011 年 2 月 3 日 技術委員会 審議

2011 年 2 月 25 日 理事会 承認

2011 年 6 月 24 日 国土交通大臣 認可

2011年6月30日 規則 第18号
鋼船規則の一部を改正する規則

「鋼船規則」の一部を次のように改正する。

Q 編 鋼製はしけ

2 章 材料, 構造等

2.1 材料, 構造等に関する通則

2.1.8 を次のように改める。

2.1.8 油を積む場合

- 1. 本編中, 燃料油を積む場合の構造及び設備に関する規定は, 密閉試験による引火点が ~~64~~60°C を超える燃料油を積む場合に適用する。
- 2. 引火点が ~~64~~60°C 以下の燃料油を積む場合の構造及び設備については, 本編の規定によるほか, 本会は特別の要求をすることがある。
- 3. 深油タンクに貨物油を積む場合の構造及び設備については, **22 章**の規定を準用する。

11 章 深水タンク

11.1 一般

11.1.2 を次のように改める。

11.1.2 適用

- 1. 船首尾タンク及び引火点が ~~64~~60°C 以下の油を積む深油タンクを除くすべての深水タンクの構造は本章の規定による。なお, 水密隔壁を兼ねる部分については, **10 章**の規定にも適合しなければならない。
- 2. 引火点が ~~64~~60°C 以下の油を積む深油タンクについては, 本章の規定のほか, **22 章**の規定を適用する。

20章 機関

20.2 内燃機関

20.2.4 排ガス管装置

-4.を次のように改める。

-4. 引火点が ~~61~~60℃以下の引火性液体を運搬するはしけに備えられる機関の排ガス管は、その開口端を甲板上少なくとも 2.4m 以上の高さまで導き、かつ、火粉の放出を防止することができる適当な装置を備えたものとしなければならない。

20.4 補機及び管装置

20.4.5 燃料油装置及び潤滑油装置

-14.を次のように改める。

-14. 引火点が ~~61℃未満~~60℃以下の燃料油の装置については、本会の適当と認めるところによる。

20.4.7 ビルジ排出装置

-12.を次のように改める。

-12. 引火点が ~~61~~60℃以下の油を貨物として積載するはしけについては、貨物油ポンプ室及び貨物油タンクに隣接する区画のビルジは、貨物油タンクに隣接しない他の区画に導いてはならない。また、貨物油ポンプ室及び貨物油タンクに隣接する区画のビルジ管は、貨物油タンクに隣接しない他の区画のビルジ管と完全に分離しなければならない。

22章 タンクはしけ

22.1 一般

22.1.2 コファダム

-1.を次のように改める。

-1. 引火点が ~~6~~160°C以下の液状貨物を積載する場合、貨物油タンクと他の区画、即ち、居住区、上甲板下にある一般貨物倉及び発火源があるとみなされる機関区域等との間にはコファダムを設けなければならない。

22.1.3 を次のように改める。

22.1.3 気密隔壁

引火点が ~~6~~160°C以下の液状貨物用ポンプ及び管系を設ける場所は、電気装置又は常に発火の原因を伴う機械を設置する場所とは気密隔壁を設けて隔離しなければならない。

22.1.4 通風装置

-4.を次のように改める。

-4. 引火点が ~~6~~160°Cを超える油を積む油槽船では、前-3.に定める換気回数を適当に参酌して差し支えない。

附 則

1. この規則は、2011年6月30日から施行する。